

令和6(2024)年度

「運営に関する計画」

(年度当初)

大阪市立栄小学校

令和6(2024)年4月～令和7(2025)年3月

令和6年度 大阪市立栄小学校の教育

令和6年4月

エビデンス
説明責任

【学校教育目標】自己を大切にし、夢と希望の実現にむけて粘り強く取り組む子どもを育てる
学力の基礎としての人权教育・人权総合学習・隠れたカリキュラム

学習指導要領【平成29年告示】

主体的・対話的で深い学び
カリキュラムマネジメント

最重要目標1 安全・安心な教育の推進

- (1) 安全・安心な教育環境の実現
- (2) 豊かな心の育成

最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上

- (3) 幼児教育の推進と質の向上
- (4) 誰一人取り残さない学力の向上
- (5) 健やかな体の育成

最重要目標3 学びを支える教育環境の充実

- (6) 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進
- (7) 人材の確保・育成としなやかな組織づくり
- (8) 生涯学習の支援
- (9) 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進

大阪市教育振興基本計画【令和4～7年度】

全ての子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備え、健やかに成長し、自立した個人として自己を確立することをめざします。あわせて、グローバル化が進展した世界において、多様な人と協働しながら持続可能な社会を創造し、その担い手となることをめざします。

児童の実態:本市平均より少し低い学力、日本語指導
基本的な生活習慣・学習規律の定着
遅刻・欠席
保護者の実態:PTA活動の再構築、
保護・要保護家庭、若い保護者
虐待・ネグレクト
貧困

保護者
保
教
教
育
人
権
教
育

地域の実態:見守り活動、なにわ教育ネットワーク
子ども食堂、外国につながりのある家庭
学校の実態:働き方改革、若い経験の浅い教職員
児童理解力・指導力・授業力の向上

一人ひとりを大切にした教育の推進。
命を大切にする。いじめのない学校
つながり、仲間づくり・平和教育
たてわり活動・集団登校・あいさつ運動
特別支援教育:インクルーシブ教育の推進…ともに育ち、ともに学ぶ
多文化共生教育、やさしい日本語
ジェンダー平等教育・LGBTQへの理解
SDGsの取組

基礎基本の学力:漢字・計算(ザクザクタイム)
授業改善:算数(授業づくりの3ポイント)・専科指導
読書活動・朝読ボランティア・ミニ図書
総合的読解力の育成／読解力…すべての学習の基礎となる
個別最適な学び:ICTを活用した教育
教え合い・学び合い…協働的な学習
保・小・中の連携…五校の取組

人権教育

アフターコロナの取組
歯みがき習慣の定着
食育の推進
ここでの天気の活用
性教育の推進
強い体つくり…休み時間の活用
競い合い…ドッジボール、かけあし、大繩
チームワークヒルール

(様式 1)

大阪市立栄小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

教育目標を「自他を大切にし、夢と希望の実現に向かって粘り強く取り組む子どもを育てる」と掲げ、これまで人権教育を基底として取り組みを推進してきた。その結果、児童には「自尊感情の高まり」「他者理解の高まり」などの心が育まれてきた。これは、先達が築き上げてきた歴史と伝統を脈々と受け継いできた成果であり、他校にはない本校の「強み」である。令和 4 (2022) 年度は、1872 年 7 月 2 日の開校以来、150 年のあゆみを迎えた。地域や保護者のみなさんの温かい支えに感謝して、人権・自治・自立をキーワードに栄小学校への愛着や所属感、自己のアイデンティティを大切にした教育を推進できるよう取組を進めてきた。

本校は、これまで『個別最適化した学びの育成』をめざし、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上等の取組を推進してきた。その中で明確になった課題について中期目標の改善と変革を行う必要がある。

学力においては、令和 4・5 年度の大阪市小学校学力経年調査の結果において、3 年生～6 年生の国語の平均正答率が大阪市の平均正答率より低い状況である。特に、本校児童は、テキストに書かれたことを「理解・評価」(解釈・熟考) することや、テキストに基づいて自分の意見を論じたり、テキストを「活用」したりすることなど、読解力に課題がある。算数においては、基礎・基本となる学習内容の定着を図ることができてきている。しかしながら、日常生活の問題を解決するために、算数で学習したことをもとに、目的に応じて、数量の関係に着目し数の処理の仕方を考えたり、基準量、比較量、割合の関係や、その数量関係について考察したりすることに課題がある。そのためには、直接体験や内発的な動機づけを重視した授業改善を図る必要がある。さらに、学習習慣や読書習慣の定着、学習環境の整備、増加している日本語指導が必要な児童への支援などが喫緊の課題がある。そのために、授業力の質的向上として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが重要であり、この視点に立った学習プロセスと I C T 機器の効果的な活用をしながら、問題発見・解決のプロセスにおける学びの充実を図ることが重要となる。加えて、学習の基盤となる問題発見・解決能力、情報活用能力、言語能力の 3 つの資質・能力を育む必要がある。明確な研究主題のもとに日常の授業改善のあり方を見直せるような研究を推進することが不可欠となる。

読解力の向上に向けた取組を進め、「読み取る力を身に付け、自ら学び、課題解決する児童」の育成をめざし、読解力向上のための指導過程や指導方法の工夫、適切な言語活動の充実を図る。

算数における活用できる力を育むために、令和 5 年度の取組を継承し、次の 3 つのポイントに焦点化を図った授業改善を行う。

【授業前】 レディネステストによる実態把握と準備

【授業中】 数学的活動を通した思考力・判断力・表現力の育成を図る。

【授業中・後】 練習問題・活用問題による確実な習得を図る。

また、算数及び国語の基礎・基本となる「数と計算」「言葉の特徴や使い方に関する事項」においては、各学年に応じた定着を図ることが課題であり、系統立てた継続的な取組を行う必要がある。学習習慣や読書習慣の定着に向けては、ザクザクタイムの充実と、読書タイムなどの業間の時間を適切に活用するとともに、区役所の事業などを活用し放課後学習の機会を確保するなどして習慣を確立するための手立てが必要となる。

さらに、学習環境の整備に向けては、個別最適化した学びの育成に向けて、教材や教具の充実・図書の充実・教室の掲示などに至るまできめ細かな整備にも目を向けていく必要がある。最後に、増加している日本語指導が必要な児童への支援については、日本語指導の機会を確保するために、日本語教室の活用だけでなく、本校独自の母語支援員や区役所の事業などを活用し取組を推進していくことが必要である。

これらの取組により、個々の教員の日本語指導が必要な児童への支援の負担を軽減し、日本語指導の必要のない他の児童へも注力できるのである。子どもたちの学習への興味・関心を高め、分かりやすい授業や「主体的・対話的で深い学び」の実現、個に応じた指導の充実を図るとともに、個別最適化した学びの実現をめざす必要がある。

地域や関係諸機関との連携においては、「地域安全ステーション」などを中心に情報の共有がなされているが、家庭や保護者との連携においては、遅刻してくる児童が固定化されていたり、食育の啓発が必要であったりするなどの課題を有しており、活性化されてきているPTA活動を切り口にさらに推進していきたい。また、集団登校では、この数年間、地域の協力を得ることにより、見守り体制が確立してきており、今後、保護者への啓発も推進していきたい。

体力においては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果より、経年にみて伸びてきている種目があるものの、令和5年度の児童アンケートで「体を動かすことが楽しく、すすんで運動している」と答えた児童が60.1%であり、さらに、体力向上の機会を確保する。

人権教育においては、学力の基礎として、自他を大切にする教育活動の深化充実を図ることで主体的・対話的、深い学びの実現を図る。自尊感情や他者理解に関する児童アンケートにおいて、肯定的な回答をする児童が多く本校教育の強みの一つとなっており、今後も人権総合学習をはじめとした取り組みを地域や関係機関の人材や資源を活用しながら継続し、一人ひとりを大切にした教育を推進することが必要である。

教員の働き方改革においては、業務の精選などに取り組むことにより、子どもと関わる時間を確保したり、教材研究する時間を保障したりすることが重要である。そのためには、教科などの特性を加味した効果的な教材や教具ならびに物品の充実を図る。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 令和5年度～7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年97%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
100	100	100		

- ② 令和5年度～7年度の小学校学力経年調査、及び校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
97.3	94.4	92.3		

- ③ 令和5年度～7年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を令和5年度(75.9%)より向上させる。

R3	R4	R5	R6	R7
86.6	70.0	75.9		

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 令和7年度の全国学力・学習状況調査の標準化得点を100以上(平均以上)にする。

	R3	R4	R5	R6	R7
国	99	91	98		
算	99	84	101		

- ② 令和5～7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント以上向上させる。

	国語					算数				
	R3	R4	R5	R6	R7	R3	R4	R5	R6	R7
R3卒	97					117				
R4卒	92	96				99	99			
R5卒	92	98	99			89	100	101		
R6卒	92	97	97			91	99	103		
R7卒		96	99			96	99			

- ③ 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点を97以上にする。

- ④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
71.7	88.9	60.1		

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の90%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
△	△	△		

- ② 第2期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を68%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
△	56.52	66.67		

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
77.8	申止	93.3	88.9	95.5	

- ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度(1.06)より減少させる。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
4.02	2.80	2.21	1.56	1.06	

- ③ 今年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について、「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」と答える児童の割合を75%以上にする。

- ④ 今年度末の本校児童アンケートにおいて、次の項目について「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える児童の割合を合わせて

- (a)「集団登校がきちんとできている」において87%以上にする。
- (b)「学校のきまり・規則を守っていますか」において93%以上にする。
- (c)「自分には良いところがあると思う」において88%以上にする。
- (d)「すすんであいさつする」において85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
53.0	50.5	42.6	44.8	36.5	

- ② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント以上向上させる。

	国語					算数				
	R3	R4	R5	R6	R7	R3	R4	R5	R6	R7
R3卒	97					117				
R4卒	92	96				99	99			
R5卒	92	98	97			89	100	104		
R6卒	92	97	92			91	99	112		
R7卒		96	95			96	96			

- ③ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
40.7	中止	71.7	88.9	60.1	

- ④ 今年度の全国学力・学習状況調査の標準化得点を 95 以上にする。
- ⑤ 今年度末の本校児童アンケートにおいて、次の項目について「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える児童の割合
- (a) 「食後の歯みがきをきちんとしている」において 85%以上にする。
- (b) 「給食を苦手なものでもがんばって食べるようしている」において 90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の 8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 90%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
△	△	△		

- ② 第 2 期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 68%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
△	56.52	66.67		

- ③ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。(令和 5 年度 59%)

- ④ 今年度末の保護者アンケートにおける「各種たよりを通して、学校や子どもの様子を伝えている」の項目について、「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える保護者の割合を 95%以上にする。

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。</p> <p>② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度（1.06）より減少させる。</p> <p>③ 今年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について、「当てはまる・どちらかといえばあてはまる」と答える児童の割合を75%以上にする。</p> <p>④ 今年度末の本校児童アンケートにおいて、次の項目について「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える児童の割合を合わせて</p> <p>(a)「集団登校がきちんとできている」において87%以上にする。</p> <p>(b)「学校のきまり・規則を守っていますか」において93%以上にする。</p> <p>(c)「自分には良いところがあると思う」において88%以上にする。</p> <p>(d)「すすんでいきさつする」において85%以上にする。</p>	

<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現 】 児童が安全に集団登校できるように指導する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地区別児童会」を各学期に1回実施する。 ・全校児童が集まる場で、集団登校についてふり返る時間を毎月1回設定する。 ・集団登校の実施状況を教員で共有できる場を毎月1回設定する。 <p>取組内容②【 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現 】 児童が互いに声をかけ合い、学校の仲間として認め合えるように、たてわり活動や異学年交流を活性化させる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たてわり活動を毎月1回、異学年交流を各学年で年1回実施する。 <p>取組内容③【 基本的な方向2 豊かな心の育成 】 人権教育をSDGsの視点と関連付けながら、児童の自尊感情を高めるための取り組みを行う。また、必要に応じて地域の施設を活用したり、人材を招いたりする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の施設を利用したり人材を招いたりする活動を各学年で年1回実施する。 ・学習したことを学校全体に広める取組を各学年で年1回実施する。 <p>取組内容④【 基本的な方向2 豊かな心の育成 】 児童がすすんでいさつができるように指導する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いさつ運動」を各学期1回実施する。 ・水曜日に「いさつの日」を設定する。 	進捗 状況
--	----------

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立栄小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 50%以上にする。</p> <p>② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント以上向上させる。</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75%以上にする。</p> <p>④ 今年度の全国学力・学習状況調査の標準化得点を 95 以上にする。</p> <p>⑤ 今年度末の本校児童アンケートにおいて、次の項目について「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える児童の割合 (a) 「食後の歯みがきをきちんとしている」において 85%以上にする。 (b) 「給食を苦手なものでもがんばって食べるようになっている」において 90%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 】 研修の充実と授業研究の実践により、教員の指導力向上を図る。	
指標 ・全教員が様々な授業形態の工夫に取り組みながら、年1回以上の校内公開授業を行う。研究授業の際には指導案検討会と討議会を実施する。	
取組内容②【 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 】 学年に応じた学力を身につけさせる。	
指標 ・基礎的基本的な学力の定着を図るため、学年の実態に応じた、読み・書き・計算の反復練習などの課題に取り組む時間を週1回設定する。	
取組内容③【 基本的な方向5 健やかな体の育成 】 歯みがきの習慣化に向けて、日々の指導と家庭への啓発を行う。	
指標 ・学年の実態に応じた歯の指導を年1回設定する。 ・給食後の歯みがきタイムを全校で5分間実施する。 ・6月、11月に「歯みがき週間」を設定する。その際、歯に関する保健だよりを発行する。 ・夏季休業前、冬季休業前に、歯みがきカレンダーを各1回発行する。	
取組内容④【 基本的な方向5 健やかな体の育成 】 体力向上のために、運動する機会を増やす。	
指標 ・かけあし月間を年1回設定し、体育の学習を中心に外で運動する児童を増やす。 ・大縄大会を年1回設定し、学級全員が外で運動する機会を増やす。	
取組内容⑤【 基本的な方向5 健やかな体の育成 】 食の大切さを指導するとともに、家庭への啓発を行う。	
指標 ・各学年で「食」に関する学習を年1回以上実施する。 ・給食だよりを毎月1回発行する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立栄小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 90% 以上にする。</p> <p>② 第 2 期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 68% 以上にする。</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65% 以上にする。（令和 5 年度 59%）</p> <p>④ 今年度末の保護者アンケートにおける「各種たよりを通して、学校や子どもの様子を伝えている」の項目について、「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える保護者の割合を 95% 以上にする。</p>			

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【 基本的な方向6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進 】 児童が日常的に ICT を活用する場面をつくる。	
指標 ・児童の 8 割以上が「心の天気」「navima」「Sky Menu」を日常的に活用する。	
取組内容②【 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 】 業務内容の精選を図り、教員一人当たり平均時間外勤務時間を減らす。	
指標 ・教育課程編成委員会を年 1 回実施し、学校行事の精選や見直しを行う。 ・ゆとりの日を 2 週間に 1 回程度設定する。	
取組内容③【 基本的な方向8 生涯学習の支援 】 読書タイムの活用、図書室の効果的な利用、学級文庫の充実、読み聞かせの取組を行い、読書習慣の定着を図る。	
指標 ・朝の読書タイムを週 2 回以上実施する。 ・地域ボランティアと連携して読み聞かせを月 1 回実施する。	
取組内容④【 基本的な方向9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 学校・家庭・地域諸団体が連携し、子どもたちが安心して過ごせる地域をつくる。	
指標 ・P T A や地域と連携した取組を年 3 回実施とともに、学校 H P や学校だよりなどを活用し、取組の発信を行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点
